

高速シートシャッター用バックアップ電源（バッテリー） 取り扱いに注意をお願いします

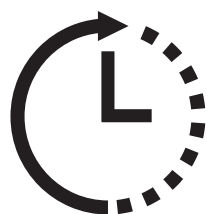
過放電による液漏れは本体故障の原因となる場合があります



3年ごとに交換をお願いします

バッテリーには寿命があり次第に容量が低下します。製品は、長期間待機を前提に「トリクル充電方式*」を採用していますが、本来の機能・品質を維持できる期間として交換時期を3年に設定しています。

* 自己放電した分を補うために微量の電流を流し続けて満充電状態を維持する方式です。過放電を避けるためにも常に通電させておく必要があります。



長期間通電しない場合は バッテリーを取り出してください

通電（トリクル充電）しない場合、コネクタを抜いたままバッテリーを放置すると自己放電によって過放電状態となり、液漏れする可能性があります。

* 電気設備の年次点検など一時的な通電停止の場合は、休止スイッチやバッテリーコネクタ取り外しが可能です。工場出荷時は満充電状態です。設置後はできるだけ早く通電してください。



落下させたり、保管により劣化した バッテリーは絶対使用しないでください

衝撃を加えたり特殊な環境下（高温環境など）で保管したバッテリーは、外装の劣化・破損箇所から液漏れする可能性があります。劣化度合いの違うバッテリーの混在使用も液漏れの原因となります。

過放電と液漏れ

バッテリーは使用しなくても「自己放電」により電池容量が徐々に減っていく特性があります。電池容量がない状態からさらにエネルギーを取り出そうと放電してしまう状態が過放電です。過放電状態になると電池内部でガスが発生し、内部の圧力が上昇します。圧力が限界を超えるとガスと一緒に電解液の一部が外部に出てしまいます。これが「液漏れ」です。

<過放電が起きる主な要因>

- ・バッテリー交換時期を超えた使用＝劣化及び容量低下状態での使用継続
- ・通電せずに長期間バッテリーを放置（自己放電により過放電となる）

